

2013 Vol.2特集「自ら表現したくなる授業づくり」へのご意見

このコーナーでは、編集部に寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*「VIEW21」小学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp>)でご覧いただけます。

◎今回の特集は、新課程で1番のポイントとなっている「思考力」を、表現を通して考えるきっかけをつくってくれました。現場では、ややもすると「表現」が目的化しがちです。子どもたちは自分の思考の過程を表現することで見直し、判断し、確かな解決へと向かいます。そのことを改めて学ぶことが出来ました。[北海道/O小学校]

◎表現力と思考力は一体で補完関係にあるということ、教師がきちんと認識しておかなければならないと思います。子どもの学習能力には個人差があるので、一人ひとりの子どもに対する支援をよく考えて、授業改善に努め、教員全体が共通認識をもつことが不可欠だと思います。

[福井県/S小学校]

◎茨城県おみたま小美玉市立羽鳥小学校の取り組みが参考になりました。本校でも、算数科において研究を重ねてきています。「つなげて発言」をキーワードに、子どもの表現する力を、子ども同士のつながりを通して高めようとしています。

[長野県/H小学校]

◎東京都ふっき福生市立福生第五小学校の「主体性を育む授業づくり」に向けた授業改善で明らかになったポイントを類型化した「15の手だて」がとても参考になりました。また、特別支援教育の視点を取り入れることは、通常学級での指導にも役立ちます。ぜひ、この手だてを本校でも生かしたいと思います。

[千葉県/T小学校]

◎本市も昨年度から全小・中学校がE S Dを推進し始めました。福島県会津若松市立松長小学校の取り組みでは、

思考力、表現力、行動力を育む手法がより具体的で参考となりました。特に、海外の学校と姉妹結縁によって、子どもたちの視野を広げ、国際的な感覚を豊かにしている本校にとって、「急がず、スモールステップを積み重ねることで徐々に活動を広げていく」という考え方は大いに納得しました。[滋賀県/K小学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」の長野県岡谷市立神明小学校・宮坂昌一校長の記事で「教材は自分の足で探し、人との出会いでつくる」という言葉が心に残りました。大学で社会科を専攻し、中学で社会科を教えていましたが、「社会科教師は常にアンテナを高くし、足かせげ」と先輩教師に教えられたことと重なりました。

[熊本県/O小学校]

◎「Benesse 発 これからの教育」の栃木県かぬま鹿沼市立みなみ小学校の記事に、「子ども一人ひとりの課題を明確にし支援計画を立てる」とありました。小さなつまづきが雪だるまのように膨らみ、学業不振や問題行動を起こす子どもがたくさんいます。一斉に学習することばかりがよいわけではなく、出来る限りいろいろな手をつくして、子ども一人ひとりを支援していくことが大切だと思いました。

[栃木県/S小学校]

◎「つながる学校と家庭の学び」の北海道びえい美瑛町立美瑛東小学校が行う、6年間の記録を書きとめる「マイノート」は、すばらしい取り組みだと思います。1年生から進めるキャリア教育は、将来の夢や希望に向けて具体的な目標をいかに持たせるかが大切だと思います。[和歌山県/N小学校]

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

今回の特集では、家庭学習の質や量を考えると共に、保護者との信頼関係を築くためのヒントをご紹介できたという思いがありました。「深い愛情の下、厳しく接する方がよい場面もある」「先回りして言葉やモノを与えずにいる」。一人の親として反省し、考えさせられる言葉も多くいただきました。子どもがたくましく生きていけるように、どこまで手をかけて、見守って、離れるのか。小学校の先生方の指導観から学べる事が多くあるように感じました。(杉田)

VIEW21 小学版 2013 Vol.3

2013年11月11日発行 / 通巻第38号

発行人 岡田晴奈
編集人 谷山和成
発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ、丹羽三千代
執筆協力 二宮良太
撮影協力 荒川潤、川上一生、谷口哲、
南弘幸

イラスト協力 幸剛

お問い合わせ先

情報編集室
〒206-8686
東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390